

2014年8月

「生誕130年記念 竹久夢二展 ベルエポックを生きた夢二とロートレック」

夢二作品に描かれた着物と帯をお披露目

京友禅の老舗・千總が初めて制作

9月26日(金)～10月6日まで日本橋高島屋にて ほか

高島屋では、竹久夢二の生誕 130 年を記念して、「立田姫」など 3 作品に描かれた着物と帯をこの展覧会にあわせて特別に制作しました。制作は創業 450 年の京友禅の老舗「千總」に依頼し、夢二の想いや、その筆致も感じられるような着物と帯が完成しました。夢二の絵の中の着物と帯を実際に創作する試みは初めてのことです。

9月26日(金)～10月6日(月)まで日本橋高島屋にて開催予定の「生誕 130 年 竹久夢二展 ベルエポックを生きた夢二とロートレック」のほか、京都、岡山、横浜など巡回展にてお披露目いたします。同展では、夢二郷土美術館のコレクションを中心に、新たな視点から選んだ作品や資料約 200 点でその芸術と生涯を振り返ります。



竹久夢二「立田姫」

1931(昭和6)年 夢二郷土美術館



左の作品をもとに制作された着物と帯

【報道関係者のお問い合わせ先】(掲載不可)

株式会社 高島屋 広報・IR 室 中村・桑原・三尾(ミオ) TEL:03-3246-5534

広報代行:株式会社ブレインズ・カンパニー 担当:杉本・村山

TEL: 03-3568-3844 FAX: 03-3568-3838 E-mail: sugimoto@pjbc.co.jp



竹久夢二「加茂川」

大正 3 (1914) 年 夢二郷土美術館

着物の裾に、艶やかな祇園の風情がにこみます。夢二ならではのデザインで、黒地に大胆なタンポポを配した帯と赤い襟が画面全体を引き締めています。



「加茂川」をもとに制作された着物と帯



竹久夢二「秋のいこい」 大正 9 (1920) 年 夢二郷土美術館

黄色く色づいたプラタナスに囲まれて、木綿織の着物で素足に下駄を履く女性。16歳で夢二のもとに来たとき、3番目の妻・お葉は大名織の着物を着ていたといわれています。



「秋のいこい」
をもとに制作された
着物と帯

